

令和7年度 普及活動成果集

次世代につなごう！魅力ある農業農村



新規就農者の集い



嘉穂トマト生育調査



貯蔵シャインマスカット品質評価会



早期コシヒカリ生育調査



リシアンサスほ場調査及び見学会



繁殖管理クラウドシステム活用研修会



福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

令和8年3月

はじめに

飯塚普及指導センターでは、福岡県農林水産振興基本計画が示す5つの目指す方向のもと、「次世代につなごう！魅力ある農業農村」を普及活動のスローガンとして、経営発展意欲のある農業者への支援、新規就農者の確保や育成支援、主要品目の生産性向上及び新規品目の導入支援などを中心に活動を進めています。

本年度は、2つのプロジェクト課題と8つの部門別課題を設定し、活動に取り組みました。

活動は、管内の市町や農業委員会、JA等の関係機関・団体で構成する飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーや部会役員等の農家リーダーの方々との連携・協力により取り組んできたものであり、この場をお借りして、関係の皆様へ感謝申し上げます。

本年度の管内の状況を振り返りますと、8月9～11日にかけての大雨により水稻、大豆、イチゴ(苗)、露地野菜等の主要作物や農業施設の被害が発生したことに加え、記録的に早い梅雨明けとその後の猛暑が水稻の外観品質低下をはじめ多くの作物や家畜に影響を及ぼしました。また、農業・農村を取り巻く情勢を見ますと、担い手の減少や高齢化、生産資材及び飼料価格の高止まり、労働力不足、鳥獣被害など、農業経営を脅かす課題が山積しています。

このような状況の中、普及指導センターでは、日頃の現地指導に加え、時宜に応じた講習会や研修会の開催、技術改善のための実証ほの設置等を行いながら、地域農業の課題解決に向けて取り組んできました。

この成果集は、本年度の主な活動成果や地域での新しい取組等を取りまとめたものです。農業者の皆さんや関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、今後も普及指導センターは、関係機関と連携し職員一丸となって農家経営の改善と地域農業の振興に取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年3月

飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

センター長 原田 洋司

目 次

1 普及活動の主な成果

- (1) 就農支援体制の確立による担い手の育成確保・・・・・・・・・・ 1
- (2) 直鞍地域における特産品目等の育成と新規生産者の確保・・・・・・・・ 2
- (3) 女性農業者の経営参画による担い手の育成・・・・・・・・・・ 3
- (4) 大豆の安定生産に向けた取組・・・・・・・・・・ 4
- (5) トマトの単収向上による産地強化・・・・・・・・・・ 5
- (6) リンドウの産地化・・・・・・・・・・ 6
- (7) シャインマスカットの長期貯蔵に向けた取組・・・・・・・・・・ 7
- (8) 和牛改良組合活動支援を通じた和牛繁殖農家の収益性改善・・・・・・・・ 8

2 トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

3 各種表彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

4 令和7年気象・農業生産の概要

- (1) 気象概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (2) 農業生産の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

5 参考資料

- (1) 現地実証・展示ほ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- (2) 現地活動情報一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- (3) 普及指導センターの活動体制・・・・・・・・・・ 24

1 普及活動の主な成果

(1) 就農支援体制の確立による担い手の育成確保

○概要

管内でも他地域と同様に担い手の高齢化・減少が進んでいます。このため、産地の維持・発展を目指し、就農希望者の受け皿となる研修機関設立に向け関係機関・団体で協議を進めるとともに、新規就農者の経営確立のための営農基礎講座を開催しました。

令和7年度に研修機関の認定を受けたことで、就農相談から研修、定着までの一貫した就農支援体制が確立しました。

○対象概況

就農希望者 238名 (R5～R7までの就農相談者)

新規就農者 70名 (R5～R7までの新規就農者)

○活動内容

就農相談 50回

営農基礎講座 6講座

研修機関設立協議 4回

○成果

- 1 ワンストップの就農相談の結果、3か年で70名が就農しました。
- 2 営農基礎講座による栽培技術及び経営指導により、新規就農者の経営確立に貢献しました。
- 3 7市町を網羅する広域の農業研修機関「飯塚地域アグリスクール」を設立しました。

○今後の取組

今後は、関係機関・団体の役割分担のもと、「飯塚地域アグリスクール」の運営により、就農希望者を確実に就農に結びつけるとともに、新規就農者の早期の経営確立を目指して、営農基礎講座の開催や現地巡回指導に取り組みます。



営農基礎講座の開催



研修機関の設立協議（幹事会）



飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会 問合せ先：飯塚農林研修センター
住所：飯塚市三ツ石1-1
TEL：0948-23-4154

研修機関のチラシ

(2) 直鞍地域における特産品目等の育成と新規生産者の確保

○概要

直鞍地域では担い手の高齢化により、生産部会員数や生産量の減少が続いています。

そこで、令和5～7年度の3か年にわたり、特産品目等*の育成、J A新規部会員をはじめとする新規生産者の確保に取組みました。

※ 特産品目等とは、地域ブランドの育成のほか、J A直鞍アグリ土づくりセンターの堆肥を使うことでコストや環境負荷の低減に繋がる等、今後のPR材料となるような新しい栽培体系の確立を目指した品目を含みます。

○対象概況

J A直鞍16生産部会、V F*出荷者、認定農業者・認定新規就農者

※ V F（ふくれん県北地区広域販売センター）… J A全農ふくれんが生産者の作業負担軽減等を目的に直方市に設置した、選果・選別・包装を行う施設。

○活動内容

- 1 特産品目等の育成
特産品目の検討会及び栽培支援 6品目 52回
- 2 新規生産者の確保
J A広報誌による部会品目のPR 6回
新規就農相談、品目相談の実施 21件
現地巡回及び栽培講習会の開催 94回



里山レモン栽培講習会



V Fでのナス目合せ会

○成果（3か年を通じて）

- 1 特産品目等の育成
専門家派遣や栽培支援により、地域ブランドとして2品目（里山レモン、赤かぶ「もものすけ」）が育成できました。
説明会や展示ほ設置により、新しい栽培体系として2品目（酒米の安定生産体系、シャクヤクの堆肥利用体系）が確立できました。
- 2 新規生産者の確保
新たに、J A新規部会員 22名、V F新規出荷者 23名の確保に繋がりました。



「もものすけ」生育調査

○今後の取り組み

今後も引き続き関係機関と連携し、地域ブランドの育成や新しい栽培体系の確立に取り組むとともに、育成できた地域ブランドは知名度向上及び安定生産、生産者確保を支援していきます。あわせて、新規生産者の確保と栽培技術の早期習得支援に取組みます。

(3) 女性農業者の経営参画による担い手の育成

○概要

管内の基幹的農業従事者の3人に1人は女性で占めますが、認定農業者に占める女性の割合は全体の5%程度で、経営参画している女性農業者は少ない状況です。そこで、女性のさらなる能力発揮と経営参画を推進するために、研修会等により経営参画意欲の醸成を行いました。

○対象概況

女性認定農業者 17名、若手女性農業者 52名、農村女性グループ員 34名
女性農村アドバイザー 9名、緑の風（女性農村アドバイザーOB） 6名

○活動内容

福岡、田川地区女性農業者の視察・交流会	2回
経営者育成塾	4回
認定農業者制度、共同申請の推進	11回
先進地視察研修による技術支援	2回



田川地区との女性農業者交流会

○成果

1 2名の女性農業者がビジネスプランを作成し、SNSの活用による新規顧客の獲得や、農産物の加工販売、働きやすい環境など、今後の事業戦略を明確にすることができました。

2 市町と連携した共同申請の推進や補助事業の活用などによって、女性認定農業者が3名増えました。

3 飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会 農業経営指導部会において、共同申請の基準について見直しを働きかけた結果、基準緩和の検討が進み、女性農業者の経営参画を後押しすることができました。

4 アドバイザー候補となる若手農業者リストを整備し、随時リストの追加を行ったことで、女性農村アドバイザーを計画的に推薦することが可能になりました。



ビジネスプランの発表会

○今後の取組

女性の経営課題に応じた研修会を開催し、資質向上や相互の交流、研鑽を進めることで、地域をリードする女性農業者を育成します。また、経営計画の作成や技術面の支援を通じて、女性の認定農業者の育成を目指します。

(4) 大豆の安定生産に向けた取組

○概要

管内の大豆収量は、7月下旬以降の播種遅れによる生育量不足や雑草害等により低下しており、令和7年産から管内に導入される本県育成品種「ふくよかまる（ちくしB5号）」に収量向上の大きな期待が寄せられています。そこで、「ふくよかまる」の品種特性を活かした栽培や難防除雑草対策展示ほの設置により、大豆の収量向上に取り組ましました。

○対象概況

J A直轄大豆部会	31 経営体
J Aふくおか嘉穂大豆部会	18 経営体

○活動内容

播種前講習会	各 J A × 1 回
6月下旬播種個別推進	9 経営体 × 1 ~ 2 回
栽培管理情報	4 回
現地講習会	2 回
播種期別展示ほ設置	2 か所
雑草対策展示ほ設置	2 か所



播種前講習会での「ふくよかまる」説明資料

○成果

「ふくよかまる」の早播き適性を活かした6月下旬播種の推進により、播種時期が早まり、播種遅れほ場面積割合は20%未満と令和6年度の90%以上に比べて大きく減少し、大豆の生育量が確保できました。

さらに、病虫害の発生等を含めた展示ほの状況を関係機関及び部会員と共有したことで、大豆単収は令和6年度に比べてJ A直轄で141%、J Aふくおか嘉穂で359%と向上しました。



展示ほでの現地講習会

○今後の取り組み

今後も引き続き関係機関と連携し、「ふくよかまる」の品種特性を活かした早播きの推進やアサガオ類等の難防除雑草対策に取り組むことで、大豆の収量向上、高位・安定生産に向けた支援を実施します。

(5) トマトの単収向上による産地強化

○概要

J Aふくおか嘉穂トマト部会は、化学合成農薬の散布回数と化学肥料の使用量を県基準の半分以下で生産するふくおかエコ農産物認証を取得し、付加価値の高いトマトを生産しています。近年、新規部会員3名が加わり産地が活性化する中、部会員の単収向上と経営の安定が急務となっています。

そこで、個別面談によりそれぞれの生産者が抱える課題を明確化し、互評会や減農薬体系の検討、生育診断、個別巡回等を通じて、課題解決に向けた取組を支援しました。

○対象概況

J Aふくおか嘉穂トマト部会 6戸 1.0ha

○活動内容

個別面談による経営改善目標設定・評価

	1回/戸
現地互評会	9回
ふくおかエコ農産物認証制度検討会	1回
バランスシートに基づく生育診断	12回/戸
土壌分析に基づく施肥設計指導	1回/戸
先進地視察研修	1回
環境制御勉強会	1回
現地巡回指導	随時
ビジネスプラン作成支援	1戸



バランスシートに基づく生育診断

○成果

- 1 3戸が前年を上回る単収を達成しました。
- 2 6戸全員が、前作の反省を元に設定した病害虫対策や生育調査に基づく草勢管理等の個別目標を達成しました。



高収量者の先進地視察

○今後の取組

産地の課題解決に向けた講習会の開催や視察研修を実施するとともに、新規部会員の栽培技術の早期習得や経営安定に向けた研修会の開催、個別面談、栽培管理情報の発信等を継続し、更なる収量・品質向上と産地の強化を図ります。

(6) リンドウの産地化

○背景

当管内の中山間地では、県内有数の露地ギク産地として知られていますが、近年では生産者の高齢化や単価低迷により、生産量及び販売額の減少が続いています。そのため、中山間地域の特性を活かし、露地ギクに代わる品目として、需要が高まっているリンドウの栽培面積の拡大及び品質向上に取り組みました。

○対象概況

J A直鞍日吉花き共販組合 (うちリンドウ生産者：2名)	9名
J Aふくおか嘉穂花き生産 (うちリンドウ生産者：3名) 中山間地域の花き生産者	32名



リンドウの栽培状況

○活動内容

広報による推進	1回
生産希望者個別説明	随時
現地検討会	2回
定期巡回による栽培指導	随時
展示ほの設置	1か所

○成果

- 1 令和5年度からの作付推進や個別生産者に向けた栽培指導の結果、新規生産者が3名増加しました。
- 2 現地検討会や巡回指導を通じて、肥培管理や芽整理の改善を図った結果、リンドウの品質が向上しました。また、J Aによる共販も開始されました。
- 3 優良系統の展示ほにより8～9月出荷の適応性を確認し、導入を進めた結果、出荷期間が7～9月まで拡大しました。



リンドウの優良系統

○今後の取組

今後は、更なる生産性向上及び品質の向上を指導し、枝もの、露地ギク、シャクヤク及びホオズキ等とあわせて、管内の中山間地域の主要な露地品目として産地化を支援していきます。

(7) シャインマスカットの長期貯蔵に向けた取組

○概要

シャインマスカットを需要の見込まれるクリスマスや年末年始に販売することを目指し、JAふくおか嘉穂ブドウ部会や関係機関と連携して、シャインマスカットの長期貯蔵技術の確立に向けた取組みました。

○対象概況

JAふくおか嘉穂 ブドウ部会 27名 12.5ha (シャインマスカット 4.8ha)

○活動内容

- | | |
|--------------|-----|
| 1 長期貯蔵に向けた支援 | |
| 栽培管理講習会 | 3回 |
| 果実品質の調査 | 3回 |
| 長期貯蔵試験 | 3園地 |
| 2 販売に向けた支援 | |
| 外観、食味評価会 | 1回 |
| 販売検討会議 | 1回 |
| 試験販売 | 1回 |



長期貯蔵シャインマスカットの外観、食味評価会

○成果

- 9月中旬に糖度20度以上のシャインマスカットを軸の長い状態で収穫し、鮮度保持袋で個装、トレーに並べタイベックシートで覆い、3～5℃の冷蔵庫で3か月間貯蔵した結果、一部軸枯れはあったものの食味良好な状態で保存することができました。
- JAふくおか嘉穂が運営する農産物直売所で12月22～25日に長期貯蔵したシャインマスカットを約3,000円/房で試験販売したところ、消費者からの評価も良く完売しました。



貯蔵シャインマスカット試験販売

○今後の取り組み

今後は、引き続き関係機関と連携して、シャインマスカットの長期貯蔵に新たに取り組む生産者に対する栽培支援、所得向上につながるよう取り組んでいきます。

(8) 和牛改良組合活動支援を通じた和牛繁殖農家の収益性改善

○概要

福岡嘉穂和牛改良組合（平成 29 年（公社）全国和牛登録協会認定）は令和 4 年度に組合独自の 2 つの目標「子牛販売単価の向上」「繁殖雌牛分娩間隔の短縮」を設定しました。

この目標の実現に向けて、和牛改良組合活動への支援を通じて和牛繁殖経営の収益性の改善に取り組みました。

○対象概況

福岡嘉穂和牛改良組合 17 戸
（登録繁殖雌牛頭数 371 頭）

○活動内容

- | | |
|----------------|------|
| 1 子牛販売単価の向上 | |
| 子牛発育状況調査 | 12 回 |
| 発育改善指導 | 4 回 |
| 繁殖雌牛の能力把握と改良支援 | 12 回 |
| 2 分娩間隔の短縮 | |
| 繁殖管理研修会 | 1 回 |
| 不受胎牛調査・対策指導 | 4 回 |
| クラウドサービス活用指導 | 5 回 |



種牛共進会で出品する仲間を応援

○成果

- 1 熊本 E T スモール市場で販売する子牛の販売単価について、市場平均以上を達成する農家数が 6 戸増加しました（計 12 戸）。
- 2 福岡嘉穂改良組合の繁殖雌牛平均分娩間隔が 424 日（R 4 年）から 400 日に短縮され、子牛の生産性が向上しました。



さらなる目標 「1年1産!!!」

○今後の取組

これまでの和牛改良組合活動支援により、組合員それぞれが育てた牛や血統・その飼養管理について比較参考にする意識が高まってきました。今後も各組合員の母牛・子牛の飼養管理技術向上に努めるとともに、仲間と連携した和牛改良・飼養管理意識の向上への取り組みについて関係機関と連携して支援していきます。

2 トピックス

(1) 経営状況を正確に把握し、経営を発展させよう！

飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会（事務局：飯塚普及指導センター）では、就農3年未満の新規就農者や今後の経営発展を目指す農業者を対象に「経営管理講座（パソコン簿記初級）」を開催し、17名が受講しました。

講座は普及指導センターで11月に全3回開催し、第1回と第2回は普及指導員が複式簿記の基礎知識を説明し、第3回は、ソリマチ株式会社から講師を招き、簿記ソフトの体験版を活用した記帳の演習を行いました。

講座後のアンケートでは、ほとんどの受講者が「記帳や簿記の大切さが理解できた」と回答しました。申告のために実際のデータを入力する支援を12月から2月まで月1回開催し、5名が参加する等、自ら複式簿記を記帳する受講者が増えました。

今後も新規就農者や経営発展を目指す農業者を対象に、講座を開催します。



複式簿記ソフトの入力方法を説明

(2) 令和7年産より大豆新品種「ふくよかまる（ちくしB5号）」に全面切替

J A直鞍及びJ Aふくおか嘉穂の大豆部会では、令和7年産より「フクユタカ」から本県育成の新品種「ふくよかまる」に全面切替が行われました。

「ふくよかまる」は、倒伏しにくく6月下旬から播種が可能のため、「フクユタカ」に比べ、播種適期幅が広く収量が安定することや、最下着莢高が高くコンバインによる収穫ロスが少ない、粒が大きく収量が8%程度多い等の品種特性があり、収量向上に大きな期待が寄せられています。

当普及指導センターでは、これまで展示ほの設置や現地検討会の開催等、品種転換に向けた取組を行ってきました。全面切替された令和7年以降も、引き続き関係機関と連携し、「ふくよかまる」の高位・安定生産に向けて、生産者を支援していきます。



ふくよかまる（ちくしB5号）のPR画像

(3) 赤かぶ「もものすけ」大阪への出荷開始！

J A直轄管内では、昨年度から新たな品目の産地づくりとして赤かぶ「もものすけ」の栽培に取り組んでいます。

本年度は、生産者9名が面積40aの栽培を行い関西市場に向け本格的に出荷を開始しました。

「もものすけ」は、皮が赤く、内部は少しピンクの入った白色で、甘味が強く、えぐみが少ないため、サラダや煮物・漬物用途として評価の高い品種です。

今年は9月下旬～10月中旬にかけて播種を行い、生育は順調に進みましたが、11月までの高温傾向により、予定より一週間早い11月21日からの出荷開始となりました。

関西地域の小売店舗での年末商戦に向けて、12月中下旬の販売を実施し、消費者からの評価を得られつつあります。

今後、市場・ふくれん・J Aと連携しながら、安定出荷及び品質向上に向けて更なる改善に取り組んでいく予定です。



店頭販売される
「もものすけ」

(4) トルコギキョウ生産者交流会 in 福岡

11月5～6日に「トルコギキョウ生産者交流会 in 福岡」が福岡花市場と宮若市の若宮花倶楽部(澄川義延組合長)で開催され、全国から生産者や関係者約170名が参加しました。

1日目の福岡花市場で行われた講演会では、高温対策やペーパーポット育苗による安定生産の事例、立枯病対策に関する報告が行われました。

2日目は宮若花倶楽部にて、トルコギキョウ見学会が開催され、国内種苗メーカー8社の57品種が展示されました。

参加者からは、「全国の生産者と交流でき、貴重な学びがあった」、「新品種に関する情報を収集できた」といった声が聞かれ、大変有意義な交流会となりました。



栽培技術講演会



トルコギキョウ新品種見学会

(5) 果樹における鳥獣被害防止対策研修会を開催！

関係機関と連携し、管内果樹生産者を対象に、果樹における鳥獣被害防止対策研修会を開催しました。

研修会では、株式会社野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏を講師に迎え、果樹におけるカラス、アライグマ、ヒヨドリ等の被害特性とその効果的な防護、捕獲対策について講演していただきました。鳥獣の園地への侵入や食害、捕獲の様子等、普段目にできない貴重な映像がふんだんに織り交ぜられており、非常に分かりやすい内容でした。

参加者からは、「すべてが今後の対策の参考になりました」、「鳥獣ごとの特有な動きがわかり、今後の対策に役立ちます」、「防護柵や罠の効果的な設置方法が知れてよかった」等の声が聞かれ、大変有意義な研修会となりました。



鳥獣被害防止対策研修会

(6) カラス被害対策機「CROW — AI」のテスト運用

関係機関と連携した鳥獣被害対策展示ほとして、最新のカラス被害対策機「CROW — AI」のテスト運用を行いました。「CROW — AI」とは、カメラと連動したAIがカラスを認識し、園に飛来した時だけ警戒音を発報することで音慣れを防ぎ、カラスの警戒心を持続させるものです。

令和6年にカラス被害が甚大だった柿団地の一角に、令和7年10月から1か月間設置し、追い払い効果を検証しました。

検証結果は、1日に3羽～20羽の範囲で1か月に300羽程飛来したうち、AIが正確にカラスを認識し発報した割合は95%となり、果実への被害は確認されませんでした。

設置した生産者からは、「設置後、被害は減ったと思う」との一方で、「今年はカラスが少ないため効果は分からない」との声も聞かれたことから、来年も検証を継続することとしています。



「CROW — AI」設置風景

3 各種表彰

表彰事業名	受賞者 (敬称略)	受賞内容	市町名
令和7年度全国優良経営体表彰 (経営改善部門)	合同会社 ファーム貞光	全国担い手育成総合 支援協議会会長賞	直方市
令和7年度全国麦作共励会 農家の部	森 英幸 森 康裕	全国米麦改良協会 会長賞	鞍手町
令和7年度福岡県麦作共励会 農家の部		最優秀賞 (県知事賞)	
令和7年度福岡県花き品評会 産物の部	グリーンハート 安田花き	農林水産大臣賞 審査員特別賞	若宮市
令和7年度福岡県花き品評会 トルコギキョウ技術ほ場の部	石田豊隆	福岡県花き市場協 議会長賞	直方市
令和7年度福岡県花き品評会 トルコギキョウ技術ほ場の部	(株) サダミツ	福岡県花き園芸 連合会長賞	直方市
第5回福岡県肉用種牛共進会 若雌2区	(株) 高手牧場	最優秀賞 (県知事賞)	桂川町
九州・沖縄地区青年農業者会議	辻 涼太	九州農政局長賞	嘉麻市

全国優良経営体表彰で全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞

直方市 合同会社ファーム貞光

合同会社ファーム貞光（代表社員 貞光誠一氏）が、令和7年度全国優良経営体表彰の経営改善部門において、全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞されました。

イチゴ、花き、養蜂、蜜源れんげ活用による特別栽培米を組み合わせた多角経営を実践するとともに、養蜂とレンゲ米を組み合わせた循環型農業を確立しました。その他、イチゴ、花きでは環境測定機器を導入し、経営主の感覚に基づく栽培管理からデータに基づく管理へと移行しています。

以上の取り組みが評価され、今回受賞となりました。



貞光誠一・寿美江氏

全国麦作共励会で全国米麦改良協会会長賞を受賞

鞍手町 森 英幸氏・康裕氏

鞍手町の森 英幸氏・康裕氏が、令和7年度全国麦作共励会農家の部において第2席となる全国米麦改良協会会長賞を受賞されました。2人は令和7年度福岡県麦作共励会の農家の部で、最優秀賞（県知事賞）を受賞され、その後九州ブロックの選考を経て九州代表となり、本受賞に至りました。

額縁明渠や弾丸暗渠の施工による徹底した排水対策に加え、土壌や生育状況に応じた適期管理や、雑草防除、赤かび病防除等の基本技術を励行し、高品質な麦生産に取り組み、今年度の10a当たり収量は大麦521kg、小麦400kgと、農協平均（大麦：366kg、小麦：287kg）を大幅に上回りました。今後も経営面積の拡大を図る予定で、鞍手町の主要な担い手として、より一層の活躍が期待されます。



県共励会の表彰式にて受賞される
森康裕氏（右）

福岡県花き品評会「産物の部」で農林水産大臣賞を受賞

宮若市 安田 一平（グリーンハート安田花き）

福岡県花あふれるふくおか推進協議会主催の花き品評会「産物の部」において、安田一平氏が「サンシュユ」で農林水産大臣賞を受賞しました。実付きが大変よく、枝と実のバランスがとれており、切枝としての姿が高く評価され、今回の受賞に至りました。



安田一平氏

福岡県花き品評会「技術・ほ場の部」で2氏が受賞

直方市 石田 豊隆

福岡県花あふれるふくおか推進協議会主催の花き品評会「技術・ほ場（秋出しトルコギキョウ）の部」で、直方市の石田豊隆氏が、福岡県花き市場協議会長賞を受賞しました。

今年度の生育期間における高温というトルコギキョウの栽培に不利な状況の中、丁寧な水分管理と効果的な害虫・病気対策を行い、高品質な切り花を栽培していることが認められ、受賞に至りました。

直方市 (株)サダミツ

福岡県花あふれるふくおか推進協議会主催の花き品評会「技術・ほ場の部(秋出しトルコギキョウ)」で直方市の(株)サダミツの貞光 孝宏氏が、福岡県花き園芸連合会長賞を受賞しました。

秋出しトルコギキョウにおける独自の土壌改良、生育段階に応じた緻密な栽培管理、日持ちを重視した高品質な切り花を栽培していることが認められ、今回の受賞に至りました。

第5回福岡県肉用種牛共進会(若雌2区)で最優秀賞を受賞

桂川町 (株) 高手牧場 ゆきみつひさ号

令和7年11月29日に県農業大学校グラウンドで開催された第5回福岡県肉用種牛共進会において、(株) 高手牧場より出品された「ゆきみつひさ」号が、若雌2区(17~20カ月齢)の部で最優秀賞(福岡県知事賞)を受賞しました。

若雌2区には県内より8頭出品されましたが、その中でも「ゆきみつひさ」号(17.9カ月齢)は発育良好であり、体積豊かで特に前軀から中軀・胸が広く充実しており、また体上線・体下線ともに平直で均称に優れていたところが高く評価されました。



若雌2区最優秀賞「ゆきみつひさ」号

九州・沖縄地区青年農業者会議で九州農政局長賞を受賞

嘉麻市 辻 涼太氏

辻涼太氏は令和7年7月17~18日熊本県熊本市市民会館シアーズホーム夢ホールで開催された令和7年度九州・沖縄地区青年農業者会議プロジェクト発表の部(畜産経営部門)において、九州農政局長賞を受賞されました。

同氏は「新たな防除形態で安定的な蜂群生産を目指す」と題し、女王蜂の隔離とシュウ酸を用いたダニ駆除法により、ミツバチの消失群数が削減、蜂蜜生産量が増加したことを報告しました。この新手法を他の養蜂家と共有したことや普及性の高い技術であることが評価されました。なお、同氏は令和8年3月5~6日にかけて東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる全国大会へ出場します。

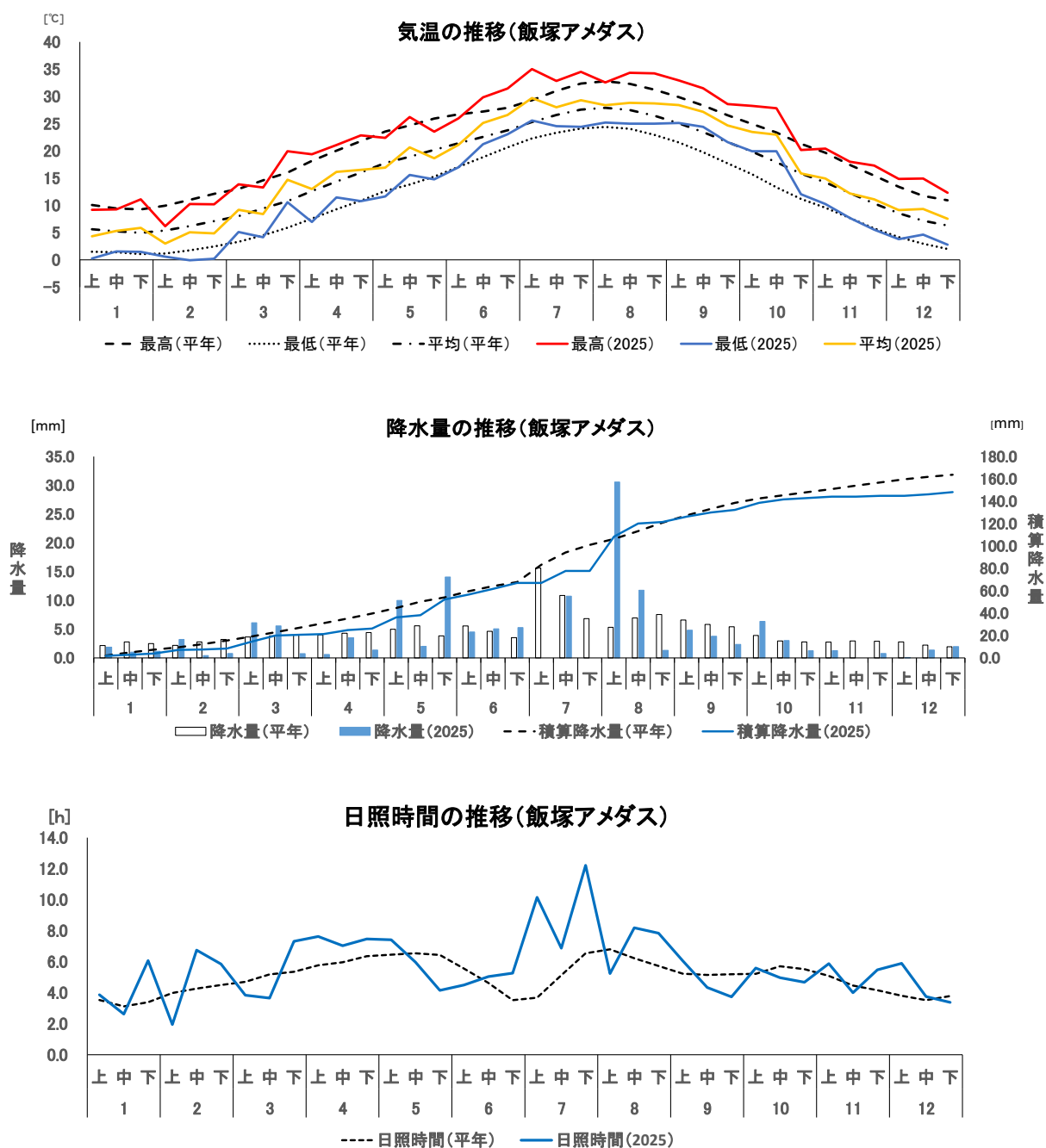


辻 涼太氏

4 令和7年気象・農業生産の概要

(1) 気象概況

2月に大きく気温が低下したものの、1～3月は、ほぼ平年並みの気温で推移しました。降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなりました。4月以降は、気温は平年並でしたが、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。梅雨入りは5月16日頃、梅雨明けは6月27日頃で、かなり早い梅雨明けとなり、その後7月は降水量が少ない状況が続きました。梅雨明け以降10月中旬までは、最高気温・最低気温ともに非常に高温で推移しました。また、8月9日から11日に集中豪雨があり、水害が発生しました。10月下旬～12月は、気温・日照時間は平年並となりましたが、降水量は少ない状態が続きました。



<気象災害>

令和7年は、記録的に早い梅雨明けとその後の高温の影響により、水稻の白未熟粒、露地野菜の生育不良及びブドウの着色不良等が発生しました。8月9日から11日には大雨により、直鞍地域を中心に一部の水稻、大豆、イチゴ、イチジク、トルコギキョウ等の冠水と土砂崩れによるハウスや畜産施設の損壊が発生しました。

普及指導センターでは気象による農産物への被害の発生が予想される時は、技術対策情報を生産者や関係機関あてに発信し、被害発生を軽減に努めました。

今年度発生した主な気象災害(表1)及び技術対策情報(表2)は以下のとおりです。

表1 主な気象災害と影響(令和7年)

時期	種気象災害	農産物及び農業施設への影響
5月9日	強風・大雨 72時間積算降雨量 61.5mm 最大瞬間風速 11.4m/s	・小麦：小竹町を中心に倒伏 2ha 被害程度 中
8月9～11日	大雨 72時間積算降雨量 323mm 最大瞬間風速 14.1m/s	・早期水稻：直鞍地区を中心に冠水 11ha 被害程度 微 ・大豆：冠水 7ha 被害程度 微 ・露地ナス：冠水 2戸 被害程度 中 ・イチゴ：冠水、苗流失 1戸 被害程度 甚 ・イチジク：冠水、果実廃棄 2戸 被害程度 弱 ・施設等損壊：直鞍地域、嘉麻市 5戸

※温度や風速の数値は全て飯塚アメダスデータを利用

※被害面積・件数は普及指導センター調べ

表2 普及指導センターから発信した技術対策情報(令和7年)

発信日	内容
4月28日	高温に伴う農産物等の技術対策
6月6日	梅雨期の大雨高温に対する農作物等の技術対策
6月24日	農作業中における熱中症対策に向けた対策
7月4日	高温少雨に伴う農作物等の技術対策
8月1日	長期間の高温に伴う農作物等に対する技術対策
8月12日	8月9日からの大雨後における農作物等の技術対策

(2) 農業生産の概況

<普通作>

○早期水稲、普通期水稲ともに収量は平年より多収傾向、上位等級比率は低迷

早期水稲、普通期水稲ともに、移植後の多照により分けつが順調に進んだことで穂数及び粒数が多くなり、平年に比べ多収となりました。

品質については、出穂後の気温が早期水稲、普通期水稲ともに高く、特に高温登熟耐性を持たない「夢つくし」において、白未熟粒の発生が多くなりました。また、普通期の「夢つくし」において、幼穂形成期から開花期にかけての用水量不足による干ばつや最高気温 34℃を超える高温等が要因と考えられる、不稔粒の発生や登熟不良による汚損粒の発生が目立ちました。

病害虫については、カメムシ類の発生は多くみられたものの、適期に防除されたことで、斑点米の発生は昨年より少なくなりました。紋枯病は昨年同様、高温の影響で多発し、一部のほ場では上位葉や穂まで枯れる株が発生しました。



「夢つくし」における
不稔及び汚損粒の発生

○小麦、大麦ともに収量は平年並みで、品質は概ね1等と優れる

大豆の収穫遅れや 11 月下旬の断続的な降雨の影響で播種が全体的に遅れたことに加え、播種後から分けつ期にかけて低温で推移したことで、生育遅れが発生しました。一方で、11 月下旬から 2 月にかけての降雨は少なく、踏圧等の中間管理作業は順調に行われました。3 月以降の気温の上昇とともに生育は回復し、特に出穂期にあたる 3 月下旬以降 4 月にかけては少雨・多照と天候に恵まれ、防除も徹底されたことから、赤かび病の発生はほとんどみられませんでした。収穫作業は、梅雨入り前までに概ね終了しましたが、一部の小麦ほ場で梅雨入り前に収穫が間に合わず、また、タデ類の蔓延により収穫できないほ場が発生しました。

収量は中間管理が徹底され、また、順調に登熟したことで昨年より多収、平年並みとなりました。品質も良く、小麦・大麦ともに概ね 1 等となりました。

○大豆は、莢数が多く平年より多収だが、カメムシ類による青立ち株が多発

新品種「ふくよかまる（ちくし B 5 号）」の特性を活かした早播きの推進に加えて梅雨明けが早かったことで、大部分のほ場で 7 月 20 日までに播種が行われ、出芽率の向上で苗立ち数が確保できました。

また、適期播種できたことや出芽後の天候に恵まれたことで生育量が確保され、莢数は多くなりました。収量は、粒の肥大がやや劣ったものの、莢数が確保されたことで平年に比べて多収傾向となりましたが、カメムシ類の発生が多く、防除の遅れたほ場では青立ち株の多発により収穫できないほ場が散見されました。



生育量が確保された大豆ほ場

<野菜>

○炭疽病が多発したイチゴ

近年、育苗期の高温ストレスにより、炭疽病が増加傾向です。今年度は、講習会や管理情報の発信、現地巡回で対策を指導してきましたが、8月の大雨以降、炭疽病が拡大しました。

炭疽病罹病による苗不足や定植後の枯死による欠株等により、出荷開始直後の11月は数量が少なく推移しましたが、12月、1月は日照に恵まれ、厳寒期でも樹勢が維持できたことで、2月上旬までの出荷量は前年比104%となりました。



樹勢が維持でき、2番果房の収穫を迎えたイチゴ

○集中豪雨の影響を最小限に抑え収量を確保した夏秋ナス

定植は5月上旬を中心に行われましたが、低温のため初期生育が緩慢となった影響で、収穫開始は昨年と比較すると1週間ほど遅くなりました。

その後、梅雨期は降雨が少なく、また日照時間が確保されたことにより生育は順調に進みました。

梅雨明け後、8月9、10、11日にかけての大雨によるほ場の冠水が発生しましたが、樹勢の早期回復に向けて管理を徹底し、8月下旬以降に出荷のピークを迎えました。

猛暑のため着色不良果の多発、樹勢の低下がみられましたが、11月中旬頃まで出荷を継続し、前年比92%の出荷量が確保できました。

○異常高温等の影響を受けたアスパラガス

出荷開始は2月上旬でしたが、曇天・低温により、春芽出荷量は昨年を下回りました。

梅雨明け以降、異常高温が続き、穂先の開きや細芽、曲がりなどの異常茎が多発しました。また、乾燥によりハダニが多発したため、夏芽出荷量も減少し、総出荷量は前年比87%となりました。



高温により発生したアスパラガスの異常茎

○夏場の高温や秋雨により定植が遅れたブロッコリー

8月の早植え作型では、定植直後の苗が乾燥による枯死や高温による根焼け等による生育不良が懸念されたため、多くの生産者は作型を遅らせました。また、9月には頻りに降雨があり、畝立て等のほ場づくりが困難で、定植が遅れました。

これらの影響で、10月の出荷量は伸び悩む結果となりましたが、病害虫対策等の適切な管理により11月から増加し、12月下旬までの出荷量は前年比170%となりました。



病害虫の大きな被害もなく生育の揃ったブロッコリー

<花き>

○高温、大雨の影響を受けた露地ギク

6月からの高温の影響で、生育は前進化し、6～7月出荷の作型は出荷が早まり、8～11月出荷は高温による開花抑制のためやや遅延しました。また、8月上旬の大雨の影響で病気に弱い品種を中心に斑点細菌病等が発生しました。アザミウマ類やヨトウムシ類の飛来も多く、一部で被害が発生しましたが、全期間を通じてキクの品質に大きな影響はありませんでした。



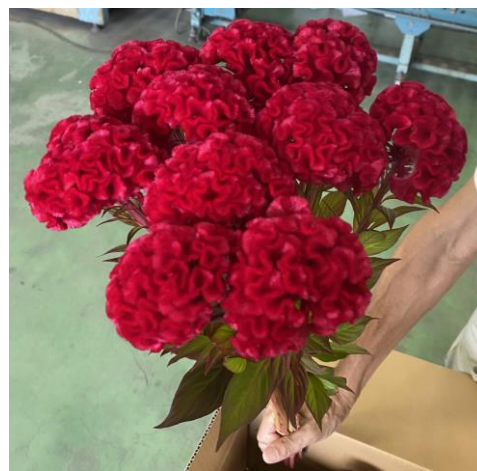
発蕾した露地ギク

○安定した販売が続く盆出しケイトウ

定植後の6～7月にかけて降水量が少なかったため、一部で水不足による草丈不足がみられ、7月中の高温により短径開花が起きました。また、高温乾燥によりヤガ類が多発し食害が見られました。

高齢化により既存の生産者はやや減少しましたが、新たに3名の生産者が作付けを開始しました。

ケイトウの出荷本数は、前年度より減少したものの、単価は近年安定しています。

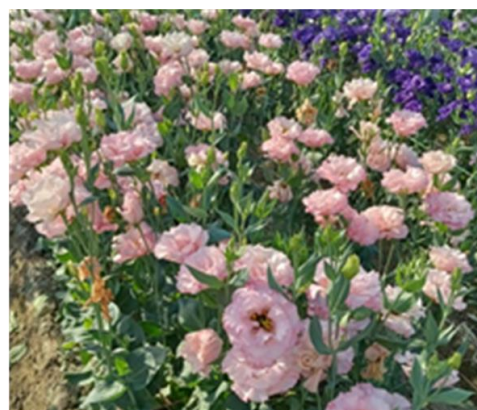


収穫されたケイトウ

○安定価格の秋出荷トルコギキョウ

秋出荷トルコギキョウは、8～10月中旬までの高温の影響により開花の前進化や短径傾向が見られました。

また、コナジラミやヨトウムシ類の発生が平年より多く見られましたが、防蛾灯と薬剤防除の徹底により、平年並みの出荷量を確保しました。このような中、需要は前年に引き続き多く、高単価で販売されました。



収穫中のトルコギキョウ

＜果樹＞

○露地栽培の結実不良や、高温の影響で着色不良が目立ったブドウ

露地栽培の満開日は5月29日頃であり、概ね平年より7日遅れました。

本年のハウス栽培の結実は概ね良好でしたが、露地栽培では結実不良がみられました。

糖度、酸度等の果実品質は良好でしたが、着色期の異常高温や夜温が高かった影響により、「巨峰」等では着色不良が目立ちました。また、一部の園では晩腐病、べと病の発生や鳥獣害の被害もあり出荷量は前年を下回りました。



着色不良の「巨峰」

○小玉果や日焼け果等の発生により、出荷量がやや少なかったカキ

「富有」の満開期は5月16日頃で、昨年と同時期、概ね平年並みでした。

着蕾は平年並みで、果実肥大は梅雨明け以降の高温乾燥の影響によりやや不良でした。

また、強日照による日焼け果や、8月中旬以降の降雨により炭疽病の発生が目立つようになり、出荷量は平年をやや下回りました。

○異常高温の影響で小玉傾向となったイチジク

露地栽培では一部で晩霜害による主枝の枯死や発芽不良が見られました。露地栽培の発芽日は4月17日頃で昨年よりも6日程度遅くなったものの、収穫開始は平年並みでした。

幼果期からの極端な高温乾燥の影響により、小玉傾向で果実の着色も劣りました。高温が続いたことから施設栽培では収穫初期に成熟異常果の発生がみられました。病虫害ではハダニ、さび病の発生は多かったものの、疫病の発生は低く抑えることが出来ました。出荷量は前年をやや下回りました。



イチジク「とよみつひめ」

○小玉傾向と生理障害等が発生したものの、出荷量は増加したナシ

開花前が低温傾向であったため、「幸水」の満開期は4月11日頃と昨年、平年に比べて遅くなりました。結実は開花の早い「新高」で凍霜害を受け一部不良でしたが、他品種では良好でした。果実肥大は、梅雨明けが早く異常高温・少雨であったため「幸水」を中心に小玉傾向でした。また、「新高」を中心にニエ果や落果が多発した園もみられました。台風の被害は無く、出荷量は前年を上回りました。

<畜産>

○飼料価格・資材等の高止まりが続き、酪農経営は厳しい状況

酪農経営においては、担い手の高齢化や後継者が減少する中、令和7年はこれまでと同様に生産資材価格や飼料価格は高止まりで推移し、管内の飼養戸数は16戸^{※1}、飼養頭数^{※2}は904頭となりました。また、令和7年の出荷乳量^{※3}は、前年より165t増加し5,418tとなりました。

令和6年11月に本県において国内初の牛の「ランピースキン病」が発生したことにより、他県の家畜市場からは本県産子牛の出荷自粛を要請されたため、一時的に出荷仕向の子牛が牧場に滞留する状態となりましたが、2月以降に市場出荷が再開され順次滞留は解消へと向かいました。

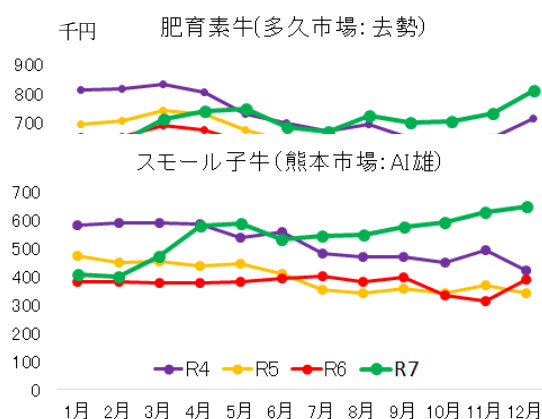
(※1・2は福岡県調べ、※3はふくおか県酪協調べ)

○黒毛和種繁殖雌牛の飼養頭数は県内トップ、低迷していた子牛価格は回復傾向

管内では、和牛繁殖雌牛の飼養頭数が多く、令和7年の飼養戸数は25戸、飼養頭数は984頭（県全体の32.2%）となっています。

この数年、和牛子牛の市場価格は肥育素牛（9～10か月齢）及びスモール子牛（3～4か月齢）ともに食肉消費の低迷等により下落しておりましたが、全国的な子牛出生頭数の減少のため4月頃から上昇し、年末には令和4年水準以上に上昇しました。

しかし、生産資材の高騰及び配合飼料や購入粗飼料価格の高止まりにより、黒毛和牛繁殖農家経営は依然として厳しい状況が続いています。

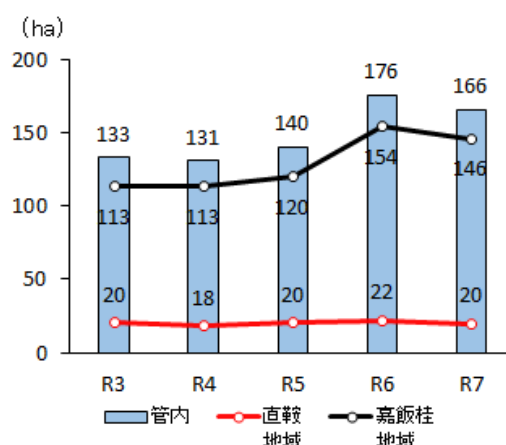


黒毛和種子牛の市場価格の推移

○飼料用イネの作付面積は増加傾向

管内では、植物体で光合成された糖分が茎葉に蓄積され、牛の嗜好性や消化率が高くなる極短穂型（穂が短く籾の収量が少ない）専用品種を推奨しており、「つきすずか」等を中心に作付けされています。

飼料用イネの作付面積は、近年130～140haで推移していましたが、令和6年より170ha前後で推移しています。



飼料用イネ作付面積の推移

5 参考資料

(1) 現地実証・展示ほ一覧

No.	品目	課題名	結果の概要	場所
1	水田農業	水稻「夢つくし」に代わる新品種の検討	新系統「ちくし102号」・「ちくし105号」は「夢つくし」に比べて、出穂期は4～5日、成熟期は3～4日早くなった。食味は同程度で、いもち病に強く、高温登熟耐性もあり、収量は13～22%多収となった。	直方市
2		大豆の難防除雑草対策の検討	トレファノサイド乳剤の土壌混和处理と狭畦栽培の組合せにより、大豆の難防除雑草であるアサガオ類の発生を抑えることができ、また、莢数が増加することで、経費の増加分を上回る収量となった。	飯塚市
3	野菜	イチゴ普通作型の高温条件下における花芽分化安定技術の検討	遮光資材を被覆すること、紙ポットで育苗することで、イチゴの花芽分化を早めることができた。特に、両資材を併用した区で、効果が顕著であった。	飯塚市 直方市
4		生産安定に向けたナス台木試験	昨年に続き、台木「トナシム」での栽培試験を実施したが、生育初期の樹勢がやや不安定で、花落ちが発生した。	宮若市
5		カブにおける有機質配合肥料「e・green」の効果検証	複合化成肥料に比べて安価な有機質配合肥料「e・green」を基肥として供試した結果、収量に大きな差はなく、「e・green」の有効性が確認された。	宮若市
6	花き	秋出荷大輪トルコギキョウの高品質生産につながる水分管理技術の検討	発蕾時の草丈が35cm以上である場合、pF2～2.5の範囲で管理することにより、その後の節間長の伸長が促進されることが分かった。さらに、収穫の2週間前からはpF1.5以上で管理すると花首の徒長は回避できるが、開花輪の花径へ影響は判然としなかった。	直方市
7		フェロモン剤によるヤガ類の被害防止技術の実証（トルコギキョウ）	11月出荷作型でコンフューザーVを設置したが、シロイチモジヨトウの被害低減効果は認められず、他の防除手段との併用が必要と考えられた。	宮若市
8		リンドウ新系統の現地適応性（9月出荷作型）	有望3系統は定植2年目で9～11月に開花したが、形質の個体差が大きいことが確認された。 「Y-E」系統は、非常に濃い青紫色で草丈、花段数も確保でき8月末～9月上旬に開花した。	宮若市
9	果樹	ブドウ「シャインマスカット」長期貯蔵試験	シャインマスカットの省力的な長期貯蔵技術の確立に向け、鮮度保持袋を用いて、約3℃で9月中旬から12月下旬まで保存した。その結果、長期保存した果実の軸枯れは多少あったものの、食味は維持され、鮮度保持効果が確認された。	飯塚市 嘉麻市
10		ナシ「玉水」の新梢誘引による果実肥大への影響	ナシ「玉水」の肥大促進を図るため、新梢伸長期の新梢誘引が果実肥大、品質に及ぼす影響を調査した。その結果、新梢誘引による肥大促進効果が確認された。	嘉麻市
11		「CROW-AI」によるカキのカラス被害対策の検証	最新のカラス被害対策機「CROW-AI」のテスト導入を10月の1か月間行った。設置期間中、被害は確認できなかったものの、全体的にカラス被害が少ない年であったため、効果が判然としなかった。	飯塚市

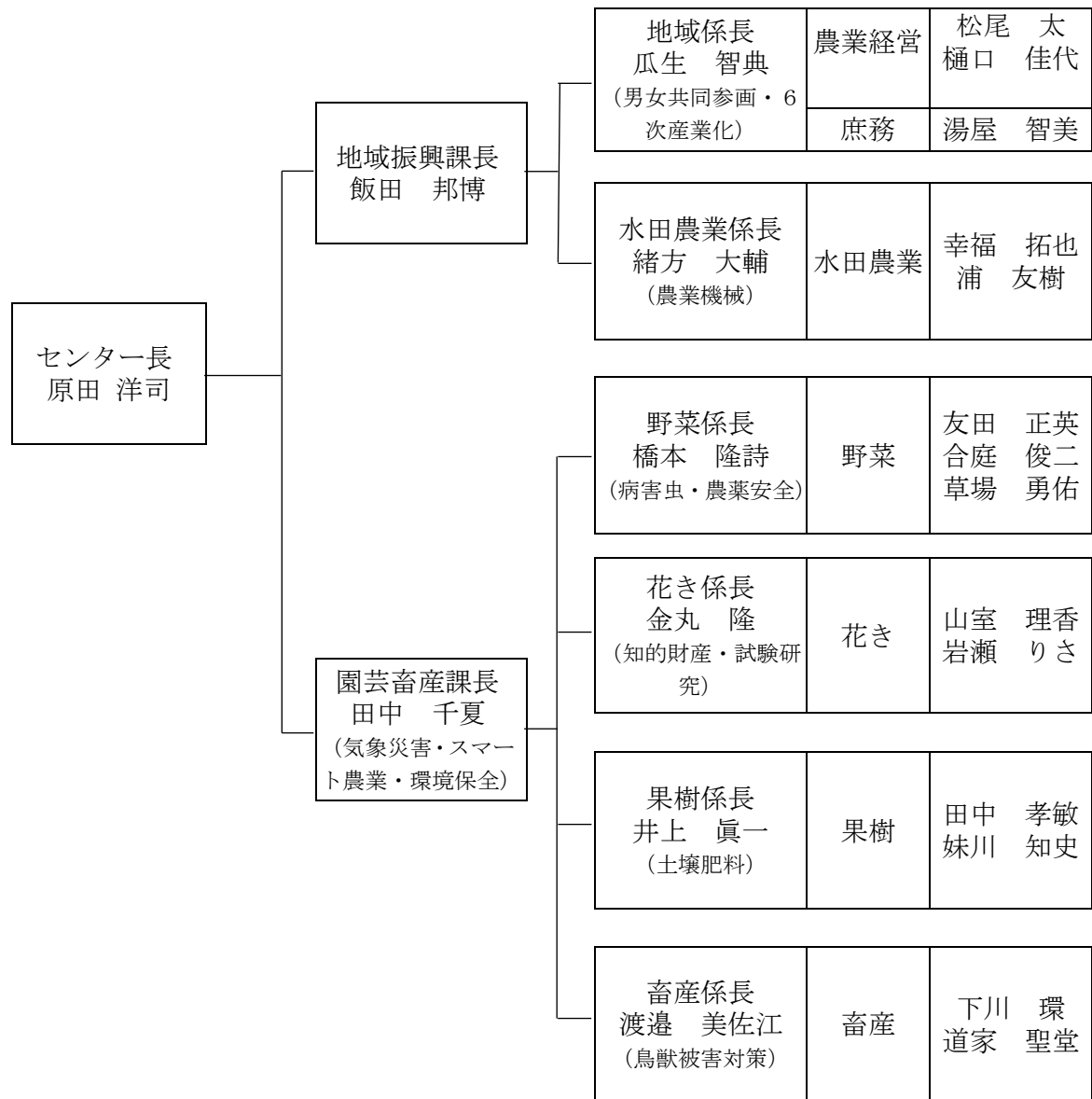
(令和8年2月発行まで)

(2) 現地活動情報一覧

No.	タイトル	No.	タイトル
1	特産花きシャクヤクの出荷に向けて ー安定出荷に向けた現地検討会を開催ー	17	J A直鞍 麦・大豆部会にて栽培講習会を開催！ー今年産の麦・大豆を振り返り、今後の適期管理で高品質・高収量を目指す！ー
2	水稲の高品質・高位安定生産を目指して ー早期水稲指標田の調査を実施ー	18	果樹におけるカラス被害防止対策を考える！ーカラス被害対策機「CROW-AI」のテスト運用ー
3	J Aふくおか嘉穂 早期コシヒカリ現地講習会を開催！ー適切な後期管理で高品質な水稲生産を目指すー	19	J Aふくおか嘉穂の「あまおう」出荷開始！ー管理の徹底と適期収穫で安定出荷、出荷量増大を目指すー
4	営農基礎講座「病害虫の基礎知識と防除管理のポイント」を開催ー効果的な防除方法と農薬適正利用による安定生産を目指すー	20	アスパラガス先進地視察の開催ー雲仙市における新品種導入事例を学ぶー
5	果樹における鳥獣被害防止対策研修会を開催！ーカラス、アライグマ、ヒヨドリの被害防止対策ー	21	飯塚・田川地域女性農村アドバイザー研修会開催ー女性農業者の交流を促進ー
6	J A直鞍管内ナス生産者の現地互評会を開催ー現状把握と、今後の生産向上に向けた意見交換ー	22	パソコン簿記初級講座を開催ー複式簿記で経営状況を把握するためにー
7	ランピースキン病の防疫対策の強化ー媒介者と考えられるサシバエを防虫ネットでシャットアウトー	23	J A直鞍の赤かぶ「もものすけ」出荷開始！ー新たな産地づくりで地域ブランド化を目指すー
8	飯塚地域新規就農者のつどいを開催ー先輩農業者の期待を胸に、がんばれ新規就農者！ー	24	トルコギキョウ生産者交流会を開催ー全国のトルコギキョウ生産者が福岡に結集ー
9	花き若手生産者のスキルアップを目指してー営農基礎講座を開催ー	25	ブロッコリー先進地視察及び意見交換の開催ー遠賀町で事例を学び、高品質安定生産に繋げようー
10	高品質なケイトウ出荷に向けてーケイトウ目合わせ会を開催ー	26	和牛改良・飼養管理技術を再確認！ー第5回福岡県肉用種牛共進会へ出品ー
11	J Aふくおか嘉穂 大豆「ふくよかまる」現地講習会を開催！ー生育は順調！今後の病害虫対策で高品質・高収量を目指す！ー	27	飯塚地域アグリスクール(飯塚A S)開校！ー関係機関一体となって就農をサポートー
12	J Aふくおか嘉穂 ブドウ部会でシャインマスカット品評会を開催ーシャインマスカット栽培技術の向上を目指すー	28	「あまおう栽培基礎勉強会」を開催ー若手いちご生産者の基礎知識習得を支援ー
13	和牛雌牛繁殖成績の向上に向けてー繁殖管理ソフト操作勉強会を開催ー	29	シャインマスカットの長期貯蔵技術の確立を目指して！ー新しい販売アイテムを創出ー
14	経営者育成塾を開催ービジネスプランを作成し、将来の夢を達成しようー	30	農作業安全およびスマート農機に関する研修会の開催ー農作業における危険の回避や最新スマート農機の活用方法について学ぶー
15	高品質なトルコギキョウ出荷に向けてートルコギキョウ定植後講習会を開催ー		
16	イチジク「とよみつひめ」栽培を始めませんか？ー新規栽培希望者説明会を開催ー		

(3) 普及指導センターの活動体制

○課係体制



○班活動の体制

・プロジェクト班

NO. 1 「担い手の確保と経営発展による地域農業の維持」

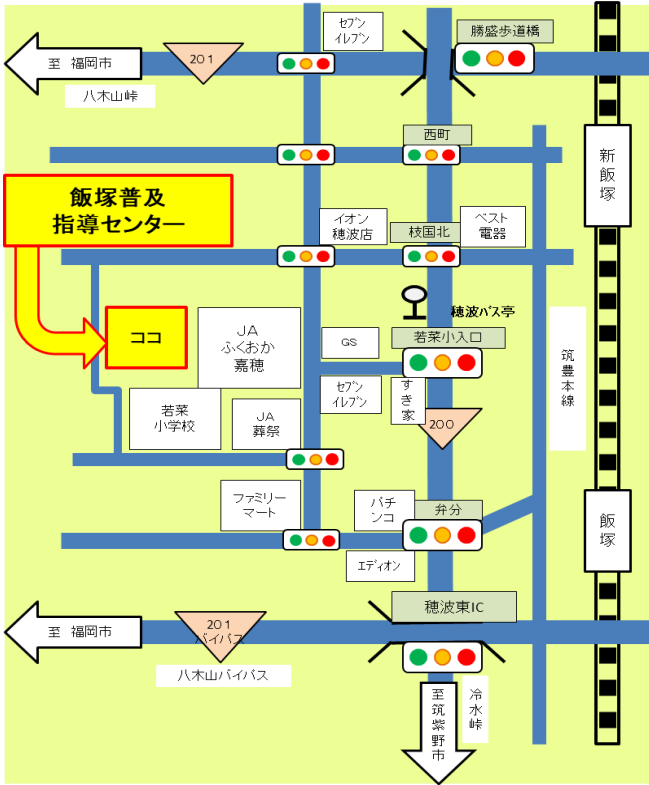
NO. 2 「多様な販売による生産者の確保及び直轄地域農業の活性化」

・推進班

経営体育成推進班、担い手育成推進班、情報活用推進班、安全・安心農畜産物推進班

DX推進班

周辺地図



庁舎への交通アクセス

車

八木山バイパス「穂波東IC」から約1.2km
「若菜小入口」交差点から約750m

JR

福北ゆたか線飯塚駅または新飯塚駅下車
タクシー約10分

西鉄バス

穂波バス停から徒歩約10分
「若菜小入口」交差点から約500m



Google Map



飯塚普及指導センター
(県公式HP内)

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

〒820-0089 福岡県飯塚市小正 319-1

TEL : (0948) 23-4154 FAX : (0948) 29-4866

E-Mail : iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

HP : <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704804/>

福岡県行政資料

分類 番号	所 属 コード	登 録 年度	登 録 番号
PA	4703419	07	0001